

新・群馬県総合計画に係る懇談会 開催結果概要

1 日時

2022年8月31日（水）15時30分～17時30分

2 場所

群馬県庁5階 特別会議室

3 出席者

懇談会構成員 10名

4 議題

ぐんまの未来構想について

5 構成員の主な意見

▼ぐんまの未来構想について

- ・投資は、ヒト・モノ・カネと言われるが、そこを可視化して、色々な成功事例が、点が線にそして面に繋がってくるという形にできるといい。
- ・群馬県は、デジタル庁がやっていることの一番新しいことを群馬でやっているというふうに連携を密にできるのではないか。
- ・災害とは何かをエピソードベースではなく、エビデンスベースで知ることが大事。自然的なイベントが発生するというのは災害ではなくて、リスクが大きくて被害を受けるから災害になるというロジックがある。そのリスクに対して何かが整備されているところがあるところが群馬県の中であると、もっとインパクトが大きくなる。
- ・「リトリートの聖地」にしていくにあたり、例えば温泉のあるところは他にもあり、群馬でなくてもとなる。そこを一步踏み込んで、群馬だからできるんだということにしたい。例えば、リトリート効果を感じるには、施設を選ぶのではなくて、とりあえず群馬に行けばいいやと思ってもらうにはどうしたらいいのかを DX とかと絡めて考える。そして、様々な可視化できないと思われていたことを数値化したり、群馬に行って帰ってきたら、精神的な部分など何か人の安心できる材料を持って帰れるような技術が出来たりしたらいいのではないか。
- ・前橋駅前の tsukurun や県庁舎 32 階の NETSUGEN みたいにクリエイターの育つ場というのが、街中で見える形にして欲しい。無関係と思っている人が、偶然その活動や群馬の取組、若い方の躍進を知ることにより輪が広がっていくのではないか。
- ・群馬モデルとして他の自治体が導入できるように発信していくことが、群馬にとっても

いいのではないか。

- ・市民化というか、一般の人たちに落ちてくるような政策を積極的にやってもらいたい。
- ・「リトリートの聖地」は、可視化がポイントだと思う。その上でそれを実装化できるか、形にできるか。
- ・「レジリエンスの拠点」。これも重要な柱。災害とかエネルギーを数値で捉え、自立分散を可視化できたらいい。
- ・ものづくりが非常に大切である。従来の例えばエンジンを作るとかいうだけでなく、もっと広い意味で、アニメなどを含めたものづくりを強化していけるといい。
- ・データサイエンスを理解した上で、エビデンスベースで人文社会科学の問題に取り組んでいくことが必要。
- ・「誰一人取り残されない」という部分が気になっている。例えばDXで言うと、市町村ではあまり理解が進んでいないのではないかという気がしていて、その部分が変わると、一般の人々も少し変わるのではないかなと思う。市町村といかに距離を縮めていけるかを考えていただきたい。
- ・群馬の魅力といたら空が広いこと。空が広いことが特徴でいいのに、結構高層住宅を建て、空を狭めてしまっている。
- ・普及される側がマインドセットされないと、素晴らしいアイデアでも実現に向かわないと実体験から感じている。イノベーションを起こすためには、普及させるプロセスにも力を入れる必要がある。
- ・群馬県は山と農業があり、二酸化炭素を吸収できる地域だと思っている。カーボンニュートラルに向けて前進してほしい。